

平成 23 年度 法科大学院（法務研究科）入学試験

小論文問題紙

A 日程

平成 22 年 10 月 23 日

10 : 00 ~ 12 : 00 (120 分)

(200 点)

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、問題を開いてはいけない。
2. 小論文の問題紙は 1 ページから 3 ページである。
3. 解答用紙は、問 1、問 2 および問 3 の 3 枚である。解答用紙の追加は認めない。
4. 解答用紙は 3 枚ともかならず提出すること。
5. 監督者の指示に従い、すべての解答用紙に受験番号と氏名を記入すること。
6. 解答はすべて解答用紙の指定された欄に記入すること。
7. 試験終了まで退室してはいけない。

北 海 学 園 大 学

問題 次の文を読んで設問に答えてください。

1884年の夏、4人のイギリス人の船乗りが、陸から千マイル（約1800km）あまり離れた南大西洋の沖合を、小さな救命ボートで漂流していた。乗っていたミニョネット号が、嵐の中で沈没し、4人は救命ボートで脱出したのだった。持っている食料はカブの缶詰2個だけで、飲み水はなかった。トーマス・ダドリー船長、エドウィン・ステューブズ一等航海士、甲板員のエドムンド・ブルック——「みんな優れた人格の持ち主」と新聞は書いている。

4人目の乗組員は雑用係のリチャード・パーカーで、17歳だった。パーカーは孤児で、長期の航海は初めてだった。友人たちの忠告に逆らい、「若者らしい大志を抱いて」契約にサインしたのは、この旅が自分を一人前の男にしてくれると思っていたからだ。しかし残念ながら、そうはならなかった。

途方に暮れた4人は、船が通りかかり、自分たちを救助してくれることを念じながら、救命ボートから水平線のかなたを見つめていた。最初の3日間は、カブを分け合って食べた。4日目にウミガメを1匹捕まえた。その後の数日間は、ウミガメと残りのカブで飢えをしのいだ。それからの8日間は、食べる物は何もなかった。

その頃には、雑用係のパーカーは救命ボートの隅で横になっていた。パーカーはほかの者の忠告にもかかわらず海水を飲み、体調を崩していた。死にかけているように見えた。厳しい試練の日が19日目を迎えたとき、船長はくじ引きで誰か死ぬべき者を決めようと提案した。そうすれば、ほかの者は生きのびられるかもしれない。だが、ブルックが反対し、くじ引きは行われなかった。

翌日になった。なおも船の姿は見えなかった。ダドリー船長はブルックに目をそらしているように言い、ステューブズにパーカーが死ぬべきだと身振りでも合図した。ダドリーは祈りを捧げ、パーカーに最後のときが来たと告げると、折り畳みナイフで頸静脈を刺して殺した。良心からパーカー殺害に加担することを拒否していたブルックも、おぞましい恵みの分け前にあずかった。3人の男たちは、4日間、雑用係の少年の肉と血で命をつないだ。

そして、助けが来た。ダドリーはこの救助について、信じがたいほど婉曲な表現で日記に記している。「24日目だった。われわれが朝食をとっていると」ついに一艘の船が現れた。3人の生存者は救出された。イギリスに戻ると3人はただちに逮捕され起訴された。ブルックは検察側証人になった。ダドリーとステューブズは裁判にかけられた。2人はパーカーを殺し、食べたと臆することなく証言した。自分たちはやむにやまれずそうした

というのだ。

あなたは裁判官だとしよう。どう裁くだろうか？話を簡単にするために、法律問題は横に置いて、雑用係の少年の殺害は道徳的に許されるかどうかの判断を求められているとしよう。

弁護側の最も強力な主張は、悲惨な状況を考えれば、3人を救うために1人を殺すことが必要だった、というものだ。

(マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』(早川書房、2010年)をもとに、数箇所加筆修正をおこなった。)

以下の設問に答える際には、問題文にもあるように、「法律問題は横に置いて」道徳的な観点から論じるように心がけてください。なお、パーカー殺害時の詳細が問題文には明記されていませんが、ダドリーとスティーブズが協力して殺害したと考えてください。

問1 ダドリーとスティーブズは、パーカー殺害を「やむをえなかった」と述べています。問題文には、「弁護側の最も強力な主張」として「3人を救うために1人を殺すことが必要だった」とだけしか述べられていませんが、この主張は、次のような功利主義的道徳観に基づいていると考えられます。

「道徳の原理は幸福、すなわち苦痛に対する快樂の割合を最大化することである。正しい行いとは、『効用』を最大にするものである。『効用』とは、快樂や幸福を生むもの、苦痛や苦難を防ぐものことである。どの行為を選択するかを決めなければならない場合には、自らにこう問えばよい。この行為の生み出す利益のすべてを足し合わせ、すべてのコストを差し引いた時に、この行為はほかの行為より多くの幸福を生むだろうか、と。」

こうした立場に立って、ダドリーとスティーブズの行為が「道徳的に許される」ことをできるだけ詳細に論証してください。(70点)

問2 問1でとった立場に対しては、さまざまな観点からの反論が想定されます。その反論の一つとして、パーカー殺害の利益が全体としてコストを上回らないため容認できない

というものが考えられます。これは、功利主義的立場に立ちつつ、この事例を「道徳的に許されない」とするものです。この立場での反論を簡潔に述べてください。(60点)

問3 パーカー殺害行為に対する功利主義的主張を退け、この行為は「道徳的に許されない」ことを論証してください。

(1) まず、問1で展開した論証に反論をおこなってください。

(2) 次に、あなたのとる立場は、「利益がコストより上回る」ことを容認の基準にしないわけですから、行為の是非・行為の正しさをどんなところに求めるかを明確にしたうえで、パーカー殺害行為が「道徳的に許されない」ことを論じてください。(70点)